

# 健康だより

2012.2 No. 100

企画発行 仙台市医師会  
後援 仙台市医療センター



100号記念対談

## 仙台市民の健康を守るため

仙台市長 奥山恵美子

仙台市医師会会長 永井 幸夫

# 仙台市民の健康を守るため

仙台市長 奥山恵美子 仙台市医師会会長 永井 幸夫

仙台市医師会が市民向けに企画発行しております「健康だより」。昭和53年の創刊以来、今号で100号をむかえました。

市長 「健康だより」100号発刊にお祝い申し上げます。読ませていただいております。書き手は専門の先生方ですが、病気などについて分かりやすく伝えようという思いがその基本にあると思います。われわれは素人ですから病気について難しく考えるか、あるいは不安を抱えこんでしまうことがあるわけですが、等身大の目線になっていて内容が分かりやすいですね。活字も大きくて高齢者の方への配慮も感じ

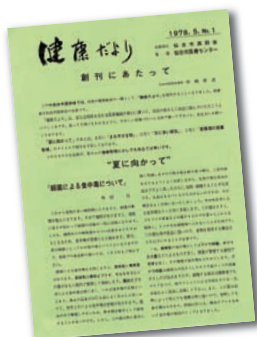
ます。病院の待合室などで順番を待ちながら、いろいろな病気について正しい知識を勉強することができ、親しまれているのだと思います。

会長 ありがとうございます。毎号6万3千部を発行し、皆さんに手軽に読んでいただけるように、医療機関に加え、仙台市の市民センターなどにも置いていただいております。市長がおっしゃったようにやさしい文章で分かりやすく書いてもらうことをコンセプトにしておりますので、市民の方からも役に立つと好評を得ています。家庭の医学書として活用されている方も多いようです。



## 東日本大震災からまもなく1年。 震災時の医療活動などについて

市長 今回の震災では津波という思いもかけないものに襲われて、多くの方々が避難所に命からがら逃げたという状況でした。ずぶぬれや泥にまみれてしまった方もおいでになりました。衛生状態の悪化による感染症などが心配されましたが、幸いなこと



「健康だより」創刊号

に医師会の活動により医療サービスが早期に復旧し、また医師会の先生方自身が被災の中にありながら、地域の避難所の巡回診療をしていただき、市民の安心の大きな支えとなったことに感謝しております。インフルエンザの季節であったにもかかわらず、大きな流行がなかったことはほっとすることでした。



—昨年(平成21年)

の新型インフルエンザの患者が国内で確認された際に、感染対策として備蓄したマスクや手洗い消毒薬の備蓄が各学校、保健所にまだ残っていたことも幸いなことでした。震災後の交通事情の悪さを考えると取り寄せることは容易なことではなかったと思います。

**会長** マスクと手洗い消毒薬は助けになりましたね。医師会では、震災当日に災害対策本部を立ち上げ、24時間体制で役員、会員医師、事務局が一致団結して対応いたしました。水か電気



3月13日に開催された緊急理事会の様子

が通じ次第、診療所を再開する、そして近隣の避難所を巡回する、この二つを基本方針にして動き、14日には市内の診療所の3分の1が、1週間目には2分の1を超える診療所が診療を開始。市民の安心安全のためにはとにかく責務を果たさなければとの思いでしたね。

インフルエンザに関しては、状況が厳しかった宮城野区、若林区の各避難所を市の健康福祉局と一緒に回り、対策をたてました。お年寄りが多かったのでとても心配しましたが、会員医師の巡回と保健師や看護師がインフルエンザの隔離室をつくり、早めの対応をしてくれていたのが何よりでした。

## 被災者への今後の健康ケアについて

**市長** 半年、1年と経ってきますと、あらためて心の不調を訴えられる方もでてくるだろうと思います。心のケアの相談窓口や相談体制をしっかり固めていくことが大切で、仙台市としては医師会のご協力もいただきながら対応していきたいと考えております。

**会長** メンタルケアも大事なことです。それに加えて着目しているのが災害の後で起きやすい生活不活発病で



す。動かないと動けなくなり頭の動きや心のありようも弱ってきます。仙台市とタイアップして生活不活発病の対策もたてていきたいと考えています。

### 市民の健康づくりについて

**市長** 仙台市において市民の健康づくりの推進は重要な施策のひとつです。元気があるというのは、人にとっても、まちにとっても活動の大きな土台です。しかし健康は他人から与えられるものではありません。自らが健康づくりに取り組むということが一番の健康の基だということを、以前から、医師会のご協力をいただきながらPRをしてきましたので、今だいぶ浸透しつつあるように思います。長い間の生活習慣が高血圧、肥満などの疾病につながりますので、若いときからの健康づくりが以前にも増して大事になってきています。健診の受診率は政令指定都市の中でトップではありますが年々微減しております。改善していきたいと考えています。

**会長** 生活習慣病で治療を受けている高齢者が増加しています。早期予防の取り組みが重要です。そのために健診は欠かせないものです。乳幼児から高齢者の健診まで仙台市が歴史的に積極

的に対応してくださっていることは大きいことですね。特に最近では特定健診を、どこでも受けることができるよう、仙台市がいち早く個別健診をはじめたことは素晴らしいことだと思います。

**市長** 個別健診はそれぞれの地域の診療所や医院で受けるということで、一人ひとりの市民にとっても、かかり



健診の様子

つけの先生ができるということになります。相談できる先生がいるということは長い間の経過の中で病状などを判断していただけることになりますから心強いですね。

**会長** 市長がおっしゃるように日頃からかかりつけ医をもつことはとても大事なことです。医師会もかかりつけ医制度を推進してきました。健康なときは良いのですが、病気の時にいつでも相談できる医者が身近にいるということは大切ですね。

**市長** 仙台市は仙台市立病院を運営しております。症状が重篤でない方がた

くさんおいでになると、本来の救急業務ができなくなります。かかりつけ医をしっかり持っていただいて、その先生から病気の症状に応じてしかるべき判断をしていただくということがこれからますます必要だと思えます。



**会長** そのことでは仙台市は診療所と二次病院との連携が非常にうまくいっています。このたびの震災での対応でも二次病院の院長先生に集まっていたいただいて協議して活動いたしました。日頃から一般の病気はまず診療所で受診し、かかりつけ医の判断で精密検査などが必要な方は二次病院に紹介という医療システムがいちばん良いと思えます。

## 乳幼児や児童生徒の健康に向けた 取り組みについて

**市長** 安心して子どもを生み育てられるまちづくりも施策の大きな柱のひとつです。

子どもさんが病気になったときの経済的負担は若い家庭であればあるほど

厳しい環境があると思えます。負担を軽くする国の制度があればよいのですが、そうはなっていません。まずは自治体でできることをやろうということで、一昨年（平成21年）には予防接種の無料化を図り、今年の1月からは「子ども医療費助成制度」を創設し、医療費助成の対象範囲を拡大いたしました。子どもの健康を守り育てるため、様々な取り組みを進めています。就学时健康診断や定期健康診断なども、医師会の全面的な協力で実施できていますので、感謝しております。

**会長** 将来を担う子どもたちの健康を守ることは医師会の活動の中でも大きな柱です。

医療費助成の拡大、予防接種の無料化の効果は大きいと思えます。例えば子どもさんたちが細菌性髄膜炎をおこす原因になる菌にインフルエンザ菌と

肺炎球菌があります。我が国で年間に千人ぐらいの子どもさんが細菌性髄膜炎になっています。死亡率は5パーセント、25～30パーセントの子どもさんに後遺症が残ります。日本ではようやくヒブワクチンが数年前に認可されましたが接種費用が高額でした。医師会が市に要請して平成23年2月からヒブワクチンと、小児用の肺炎球菌ワクチンそして子宮頸がんの予防ワクチン、この3つのワクチンを無料化されたことは、市民にとって朗報だったのではないかと思います。

### 健康づくり推進にともなう 市民への広報活動について

**市長** 健康に関する情報や各種制度の周知、健診受診の啓発などのお知らせは市政だよりが中心です。その他パンフレットやポスターやラジオ、テレビなどの市政番組でお知らせすることになります。仙台市の広報媒体は高齢者の方には良く見て頂けるのですが若いご家族はそれに比べて認知度が低いとか、そうした傾向にあります。ヒブワクチンのときなどはポスターを病院に張り出していただきましたが、お母さん方がそれを見て多くの方々が接種に訪れたとうかがいました。

**会長** 新しいワクチンがでたときや新型インフルエンザ対策、インフルエンザそのものの広報についても仙台市と医師会が協力してポスターを作って各医療機関に貼るということを行いました。それだけでもかなり浸透します。

**市長** そうですね。誰かがポスターをごらんになり口コミで情報が伝わっていくということがありますね。仙台市では子どものための施策の一覧などテーマ別にホームページのブロック化をして情報発信もしています。休日、深夜の医療機関利用、いわゆる「コンビニ受診」自粛の啓発も課題です。大都市では何にでも救急車を呼ぶために出動要請が増え、緊急時に対応できないということも起きています。育児のひとつの心得として、これは病院に行くべきか、様子をみても大丈夫かということ、ある程度わきまえられるようにできれば良いと思いますけど……。

**会長** 最初の子どもさんだと高熱などであわててかけこむのは仕方がない面もあるとは思いますが。小児科医会で討議しているのですが、この程度なら一晩過ごしても大丈夫だよ、などと、日頃の診療の中でお母さんたちに教えていくことがとても大切だと思いますね。啓発していくことによってコンビニ受診を減らすことができるのではな

いかと思います。

医師会の広報活動としては「健康だより」のほかに100万市民と仙台市医師会を結ぶ情報誌「てとてとて」を発行しています。家族を含めた患者さんと医師そして行政この三者の手の強い結びつきがコンセプトです。医学的知識の啓発活動やその時々の保健・医療・福祉などさまざまな事柄を取り上げています。仙台市と共催の「市民医学講座」も460回を超え毎回多くの市民の方が来場しています。病気や治療などについて医師が答えるQ&A形式のケーブルテレビ番組「家庭の医学」やインターネットでの情報発信にも取り組んでおります。



「てとてとて」

## 地域医療の充実について

**会長** 地域医療の充実には、人材確保が大きな課題のひとつですが、医師会では60年ほど前から准看護師の養成、30数年前からは正看護師の養成も行ってきました。建物と設備が老朽化し、看護専門学校として移転新築することになり、昨年12月23日に市長にもご臨席いただき起工式を行いました。こ



市民医学講座の様子

の1月から建設が始まっております。看護学校は会員医師が講師として教育に参画しているという医師会ならではの特徴があります。医療の面だけではなく保健、福祉、介護の面でも看護師の力が必要な時代が到来しておりますので、それに対応できるような看護師を養成していくことが地域医療の面でもひとつの貢献になるのではないかと考えています。

**市長** 病気に対する患者さんのところを和らげるという役割も看護師さんの大事な役目です。卒業生の方も地元に残ってくださる割合が高いようですし、仙台市としても大いに期待しております。

今回の震災の中でもあきらめずに建設計画に取り組みまれてきて、今まさにその成果がでていることは素晴らしいことだと思います。

**会長** ありがとうございます。今まで1万人を超える人材が育っています



が、そのかなりの方々が地元で活躍しています。市民の皆さんのご期待に沿えるように今後も会員医師一同頑張っ  
てまいります。

## 市民の健康を守るための行政と 医師会の連携について

**市長** 医療資源も無尽蔵ではない中でしっかりと役割分担を進めていくためには、その土台にお互いの信頼関係と連携の積み重ねが重要だと思います。医師会と仙台市は長年、市民の方の医療福祉の向上のための課題にともに取り組んできた実績があります。医師会では看護専門学校を建設なさるし、一方仙台市ではあすと長町に1月27日市立病院の着工をしたところ。両者が力を合わせて進んでいけばこの震災の中でも市民の方に、なお安心していただける医療環境がつかれるのではないかと考えております。これからもよろしく願いいたします。

**会長** お話のとおりで仙台市と医師会



看護専門学校（完成予想図）

は市民のためということで、お互いに遠慮のない意見を述べあいながら信頼関係をしっかりと築いてきたという歴史があります。そのお陰で新型インフルエンザ対策でも震災の対応でも市民のための医療活動が円滑にできたのではないかと考えています。仙台市医師会の使命は「仙台市民の健康と生命を守る」ということです。これに基づいてこれからも様々な活動をしていくつもりでおります。仙台市が市民のための健康に関する施策、教育に関する施策を行うときには全面的に協力したいと考えております。

本日はありがとうございました。

## 休日・夜間・初期救急医療機関案内

### 休日テレホンサービス

☎022-223-6161

〔休日／7:00～16:00〕

### 宮城県休日・夜間診療案内 （仙台市内）

☎022-216-9960

FAX兼用

〔FAXは休日／24時間〕

〔音声案内は診療時間の  
3時間前から〕

### 初期救急医療機関案内電話番号

☎022-234-5099

〔平日／19:00～翌朝7:00〕

〔土曜／14:00～翌朝7:00〕

〔休日／9:00～翌朝7:00〕